ぞぞろぎ様の贄

琥珀のあえぎ声に触手たちが反応しざわめきが生じた。それまで宙空で暇を弄ぶように漂っていただけの無数の触手たちが、突然意思をもったかのごとく、混ざり汁が激しく飛び散る琥珀の尻穴目がけて殺到したのである。

そして――。

「――――ッッッ！」

琥珀の声が一瞬、詰まった。

触手の大群が、尻穴を引き裂くようにこじ開けて、すでに先客がいる直腸の中へと入ってきたのだ。

ズグニュブルルル

「む、むりッ、むりいいいいいいいいッ！　裂けるッ、裂けちゃう……ッ！　お尻の、穴……裂ける……お腹ッ、破れちゃうううううううううううううッッッ！　抜いてえええええええええええええッ！　お願いだからッ、抜いてくだしゃいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいッッッ！」

しかし、そんな懇願が通用するわけがなかった。

琥珀の尻穴に入ってきた触手の群れは、しばらくの間、琥珀の反応を愉しむかのようにそれぞれ個別でピストン運動を繰り返していたが、やがてそれだけでは満足できなくなったのか、一本、また一本と、奥へ奥へと上を目指して進みはじめたのである。

「ごべえええええッ、へえええッッッ！」

内臓を文字通り蹂躙されて、凄まじいほどの圧痛と激痛が琥珀を襲う。腹の中で蠢き、競い合うように奥へと進む触手たちの動きに合わせて、琥珀の腹がまるで別の生き物のようにぐねぐねと波うちながら膨張を始めた。

続きは本編でお楽しみください。